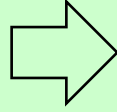


秋冬野菜の栽培により土地利用の高度化を図る経営体 ～和歌山市：ごめ太郎農園～

経営体の概要

実施前：平成19年
基幹作物：水稲、キャベツ、はくさい



現在：令和4年度
基幹作物：水稲、レタス、キャベツ、はくさい

経営面積：1.0ha

経営面積：3.5ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成19年に両親の農業を継ぐ形で就農した。

就農当初から水稲と秋冬野菜（水稲裏作）としてキャベツとはくさいを栽培していたが、平成30年から新たにレタスを導入し、秋冬野菜の面積を増やし、現在ではキャベツ、はくさい、レタスを合わせて3.5ha栽培している。

国営事業により用水施設が改修され、安定的に用水が得られており、用水利用における安心感につながっている。

営農改善のポイント

①作物の変化

水稲の作付面積に変化はないが、新たにレタス（結球、ロメイン）を導入したことと、キャベツとはくさいの作付面積の拡大により秋冬野菜の作付面積が、1.0haから3.5haまで拡大している。

また、ふるさと納税の返礼品として、とうもろこしを栽培している。



【ロメインレタス栽培状況】

②省力化

事業実施を要因とする労働時間や経費等の変化はないが、田植機を4条植えから5条植えの施肥・除草剤同時施用に、コンバインを2条刈りから3条全面刈りに、野菜移植機を半自動から乗用全自動移植機に買い替えるなどして機械の高機能・高性能化により省力化に努めている。



【はくさいの栽培状況】

③流通・販売の工夫

米は知り合いの卸業者に全量を販売しており、60kgあたりの単価は、系統出荷に比べて3割ほど高くなっている。

キャベツ、はくさい、ロメインレタスは全量を系統出荷しているが、結球レタスは知り合いの卸業者に全量を販売するなど品目ごとに有利な販売先を選択し、所得の向上に努めている。

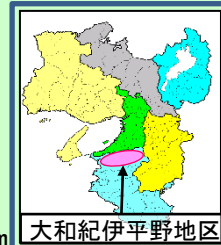


【収穫間近の結球レタス】

事業概要

事業種：国営農業用水再編対策事業
関係市町：和歌山市 外4市2町
受益面積：5,633ha(地区全体：12,359ha)
事業期間：平成13年～平成29年
事業目的：用水改良
主要工事：ダム改修1箇所、頭首工改修4箇所、揚水機場改修2箇所、用水路改修L=304km

位置図（和歌山県）



<問い合わせ先>

近畿農政局
農村振興部農地整備課
電話：075-451-9161
(内線2528)

(令和4年度調査時点)